

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市西山児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3 指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 12,684 人 (前年度比 73.7 %) 令和元年度 17,201人 平成30年度 15,387人 平成29年度 15,100人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 31,615 千円 ( 29,951 千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 ( 0千円) ・ その他収入 0千円 ( 0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>令和2年度の年間利用者数は12,684名となった。緊急事態宣言に伴う自由来館利用休止期間を経て、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらできる限りの業務遂行をすすめる1年となった。</p> <p><b>【児童健全育成】</b> 小学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」は3名の新規登録があり、12名の構成員が1年間の活動にあたった。7月より館外での集合解散という対策をとり自然体験活動のジュニアボランティア活動を再開。公共交通機関利用を避け、ニシヤマセブン独自の自転車でのデイキャンプ活動を開始。8月に仙台港、10月に七北田公園を目的地に少人数グループでのサイクリング、自然体験活動の指導力向上トレーニングを実施した。</p> <p><b>【子育て家庭支援】</b> 鶴・燕・西子育て支援ネットワーク活動では、共催乳幼児親子向け行事を開催することができなかつたため、子育て応援リーフレットの作成と配布を行った。乳幼児親子の活動は7月より再開し、館内飲食の代わりにおやつのお土産を行事の最後に渡すなどの工夫を行った。</p> <p><b>【地域交流推進】</b> 地域の方と交流を深めるための行事はすべて中止とした。 館便りの配布、小学校の学校関係者評価委員会などで情報交換をすることはできた。</p> <p><b>【放課後児童健全育成】</b> 臨時休校期間は、児童がただ毎日を過ごす期間にならないよう、行事や館内清掃、お手伝いを毎日の生活に組み込んだ。感染予防に努めつつ、法人の特色を活かした活動もできる限り提供することができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>館の特色でもある「地球探検隊」や小学生ボランティアグループ「ニシヤマセブン」の活動はコロナ禍の制限の多い中で出来る事を模索し取り組んだ結果、新しい活動としてサイクリングへの取り組みへと繋がった。また、人気のキャンプなどの活動においても感染対策の徹底と内容の見直しを図り、活動継続のために取り組んだ。子どもの豊かな経験の場の提供に務め、自然との関りや様々なアウトドア活動を通して豊かな人間性を育てている。</p> <p>放課後児童健全育成事業としても子ども達の企画などで主体的な活動を支援している「こどもまつり」や自分の好きな表現を発表する場を提供する「にしやま劇場」、子ども達とスタッフと共にアイデアを出し合うコントや漫才のコンクール「N-1グランプリ」など豊かな活動を通して、子どもの生き生きとした活躍の場を提供し、主体的な活動への取り組みを支援している。また、お手伝いや館内清掃への取り組みに応じてポイントが貯まるなどのお楽しみ企画を行い、子どもの積極的な児童館運営への参画に取り組んだ。</p> <p>地域との連携は難しい時期であったが、鶴・燕・西子育て支援ネットワークでの協力を継続し、地域の子育て家庭に向けたリーフレットの作成や、西山小学校を中心としたコミュニティスクールの学校運営協議会での話し合いの場を通じて地域の諸団体との連携、児童館の活動への理解を深めている。</p> <p>こうした特色のある館の様々な事業を通じて、常に職員のスキルアップを意識して遊びの提供や子ども達の支援に取り組んでおり、評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課